

第 1 章：安田町の社会的現況

1. 安田町の位置及び地勢

1) 位置と沿革

図：安田町の位置

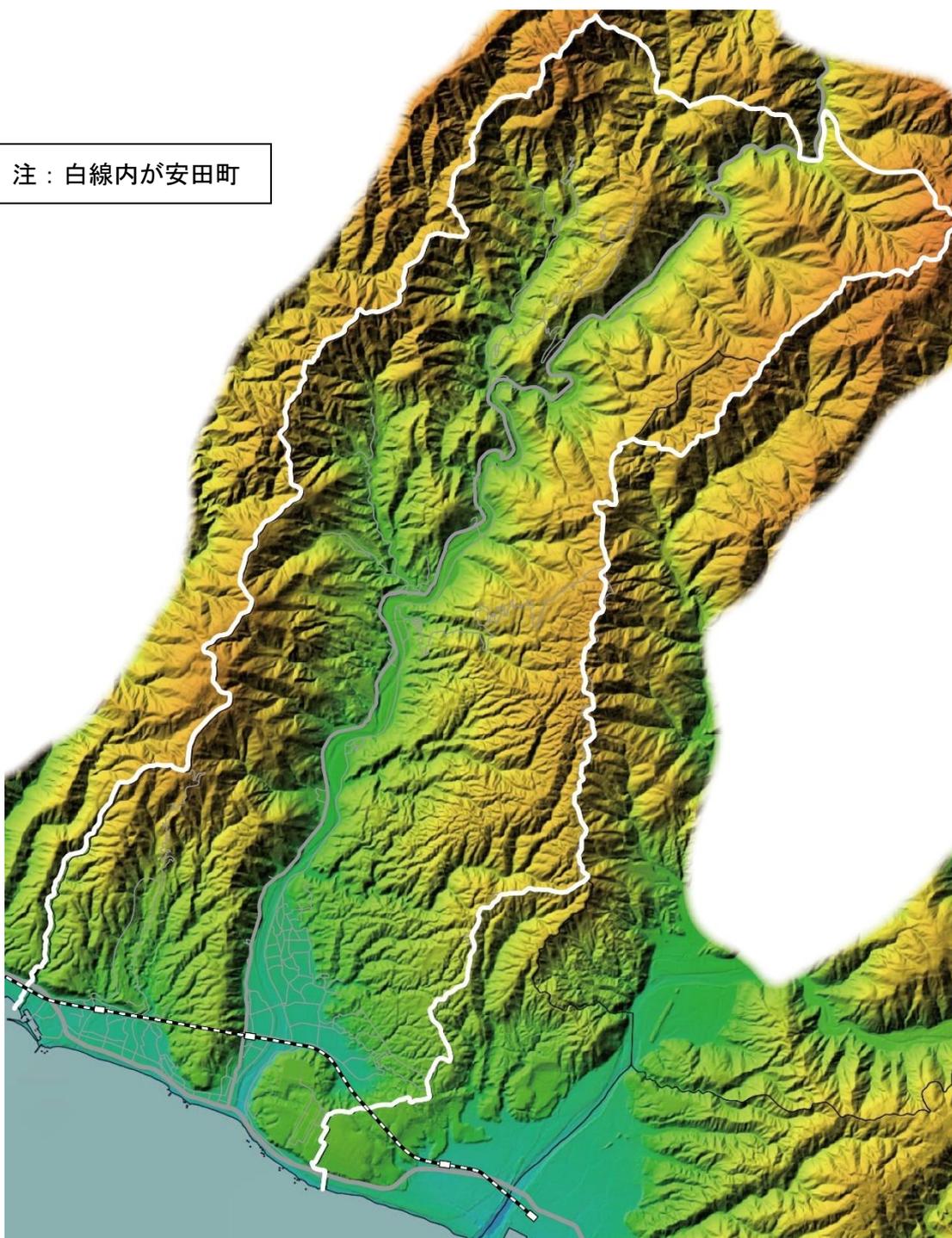


本町は、高知市から東へ約 50 km の海岸沿いに位置し、安芸市、馬路村、北川村、田野町に隣接し、さらに土佐湾に面している。

面積は 52.36 km²あり、安田川の流れに沿って町域が広がっている。土佐湾に近い安田川下流部はハウス園芸発祥の地とされており、今でもハウスによる野菜栽培が盛んである。

1889 年の町村制施行により、安田村、西島村、唐浜村、東島村の 4 村で安田村が発足し、1925 年に安田町となった。また、1943 年に馬路村と隣接する中山村を編入して現在の姿となっている。

2) 地勢



図：安田町の地勢

本町の地勢は、南の土佐湾に向かって馬路村より流れる安田川に沿って削られた谷状の地形となっている。町域の約 79%が森林であり、平野は安田川の下流域に広がっている。

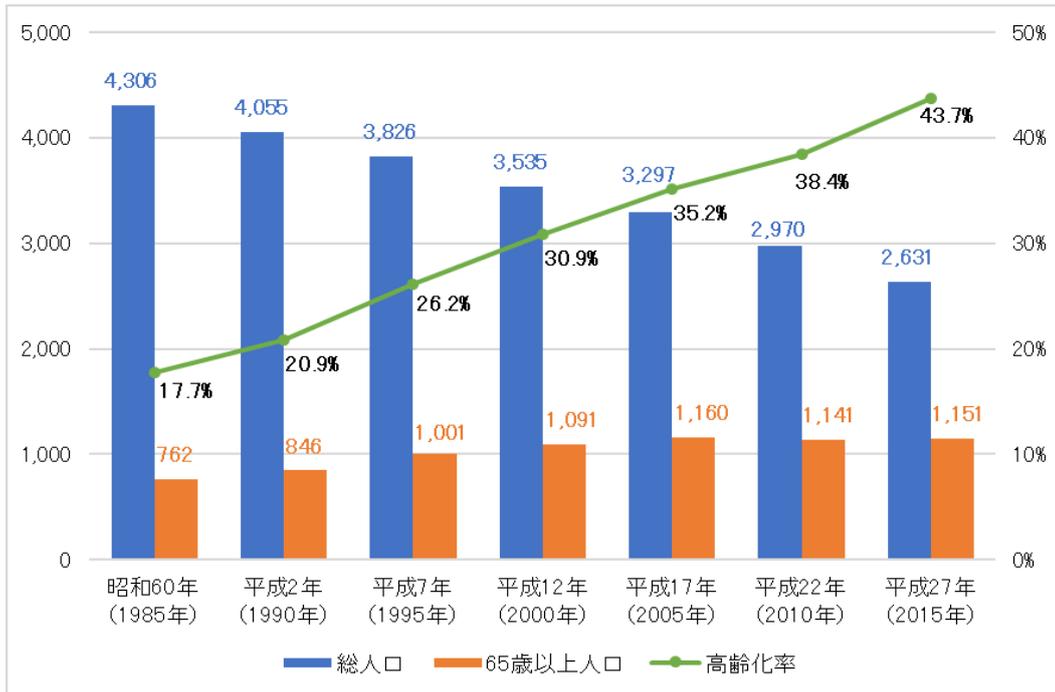
平野部では温暖な気候を活かした施設園芸が盛んとなっている。

2. 人口及び世帯数

1) 人口と世帯数の推移

下の図及び表には明示していないが、本町の人口は昭和23年（1948年）の6,970人をピークに減少し続けている。

都市部への若い世代の流出とそれに伴う少子化が主な原因と考えられ、その結果として一世帯当りの人員も減少傾向にある。



図：人口と高齢化率の推移（出典：国勢調査結果）

表：人口と世帯数の推移（出典：国勢調査結果）

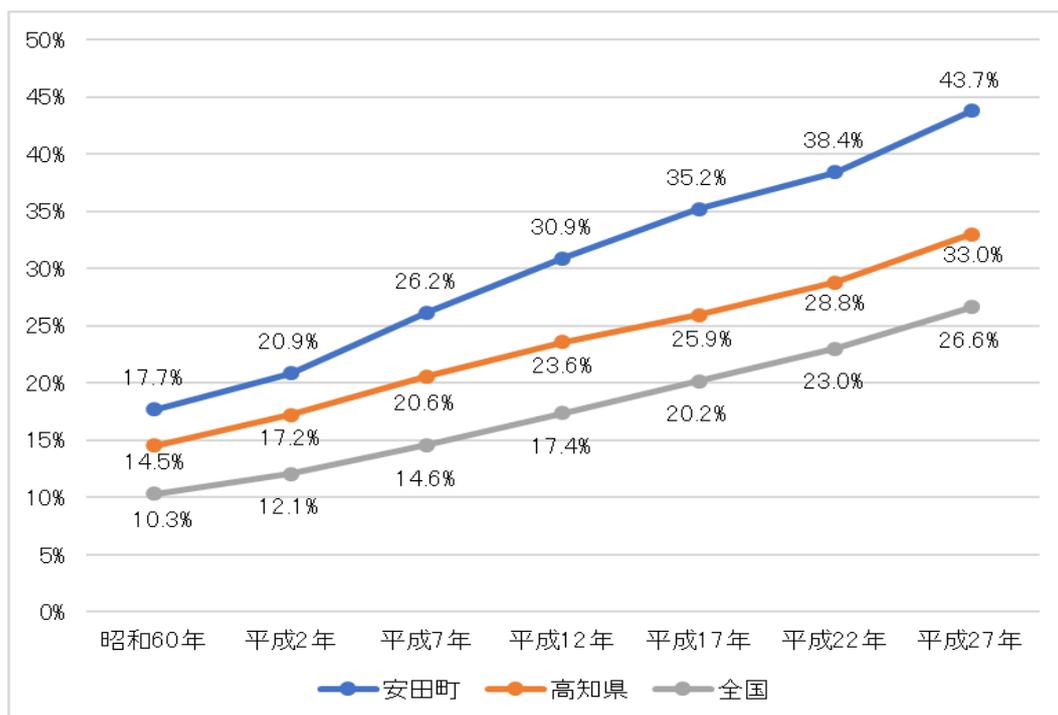
	昭和60年 (1985年)	平成2年 (1990年)	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)
総人口(人)	4,306	4,055	3,826	3,535	3,297	2,970	2,631
一般世帯数(世帯)	1,376	1,344	1,326	1,316	1,271	1,201	1,144
世帯当人員(人)	—	—	—	2.68	2.58	2.46	2.28

※ 平成7年以前の世帯当人員はデータなし。

2) 高齢化率

人口が減少傾向にある中で、65歳以上の人口は増加しており、結果として高齢化率が高くなっている。

平成12年国勢調査結果において高齢化率が30%を超え、平成27年には43.7%となり、高知県と比較して10年程度、全国と比較して20年程度、早く高齢化が進んだ状況となっている。



図：高齢化率の推移（出典：国勢調査結果）

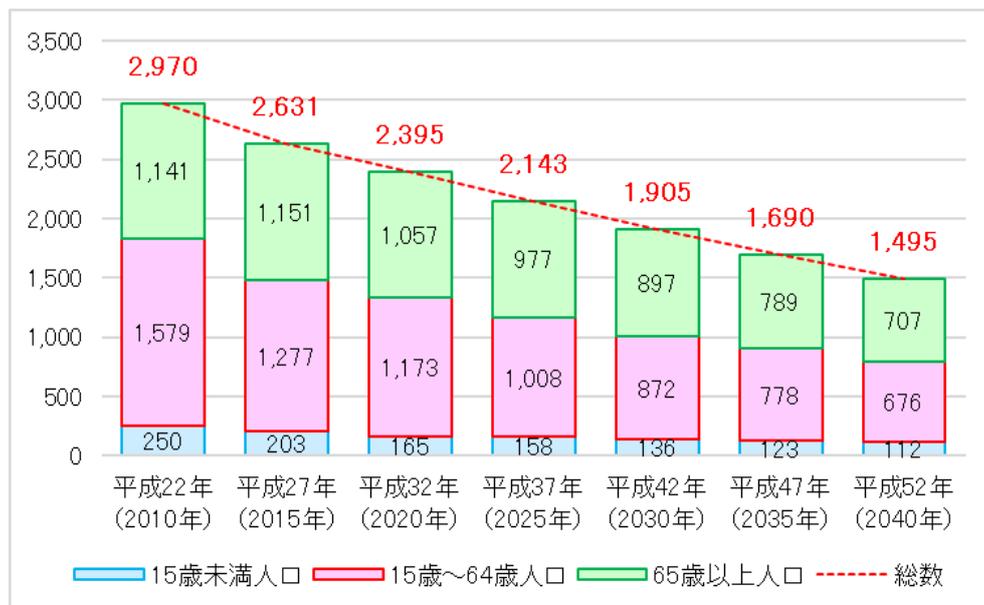
表：人口と高齢化率の推移（出典：国勢調査結果）

	昭和60年 (1985年)	平成2年 (1990年)	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)
総人口(人)	4,306	4,055	3,826	3,535	3,297	2,970	2,631
65歳以上人口(人)	762	846	1,001	1,091	1,160	1,141	1,151
高齢化率(%)	17.7%	20.9%	26.2%	30.9%	35.2%	38.4%	43.7%

3) 人口の将来推計

国立社会保障人口問題研究所が発表している将来推計人口では、本町の人口は一貫して減少していくと予測されている。

平成 32 年には 2,500 人を下回り、平成 52 年には 1,495 人にまで減少する予測がされている。



図：年齢区分別将来人口の推移

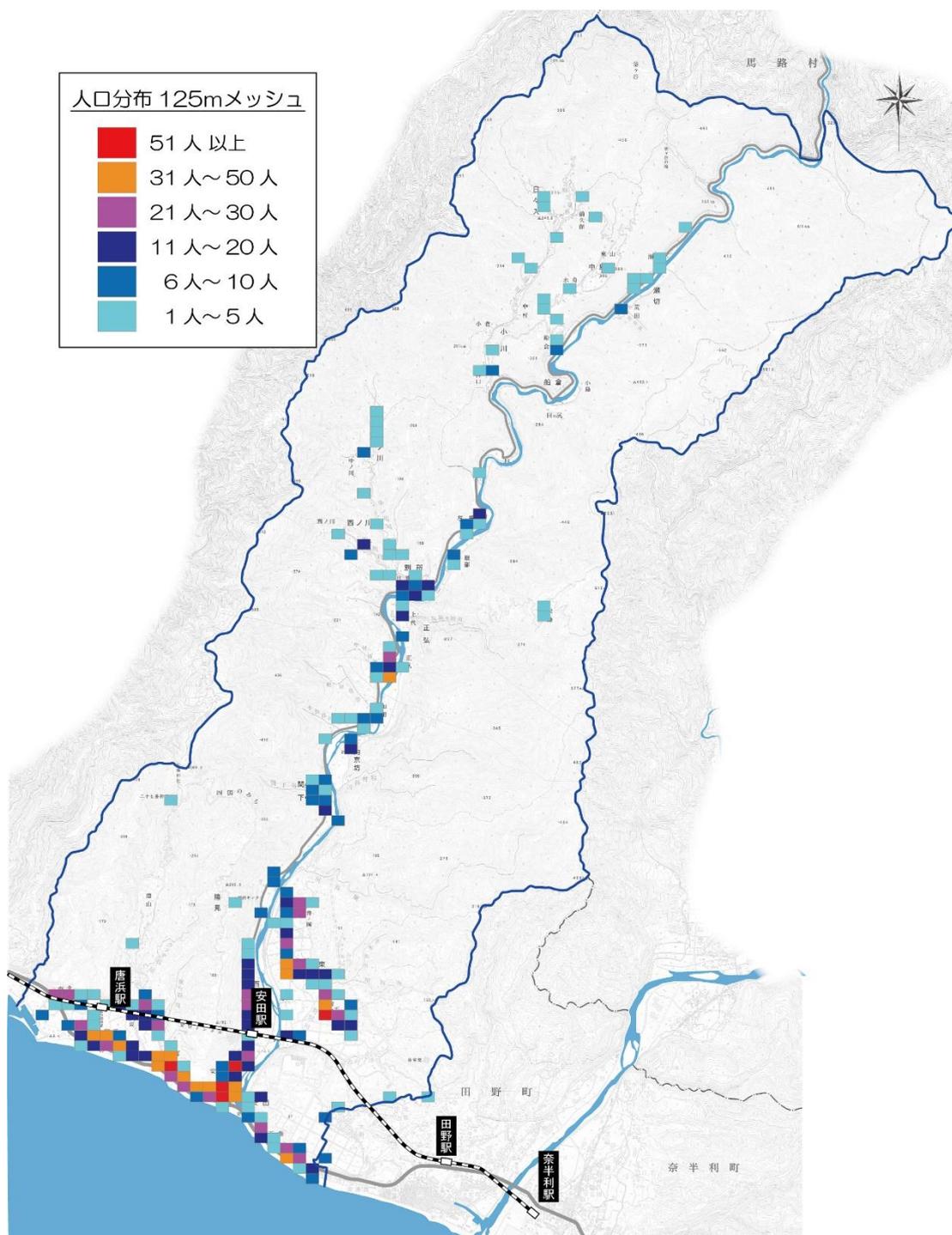
(出典：平成 22 年、平成 27 年国勢調査結果、日本の地域別将来推計人口)

表：年齢区分別将来人口の推移

(出典：平成 22 年、平成 27 年国勢調査結果、日本の地域別将来推計人口)

	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	平成32年 (2020年)	平成37年 (2025年)	平成42年 (2030年)	平成47年 (2035年)	平成52年 (2040年)
15歳未満人口	250	203	165	158	136	123	112
15歳～64歳人口	1,579	1,277	1,173	1,008	872	778	676
65歳以上人口	1,141	1,151	1,057	977	897	789	707
総数	2,970	2,631	2,395	2,143	1,905	1,690	1,495

4) 地区別人口分布



図：安田町の人口分布 [125mメッシュで表示]

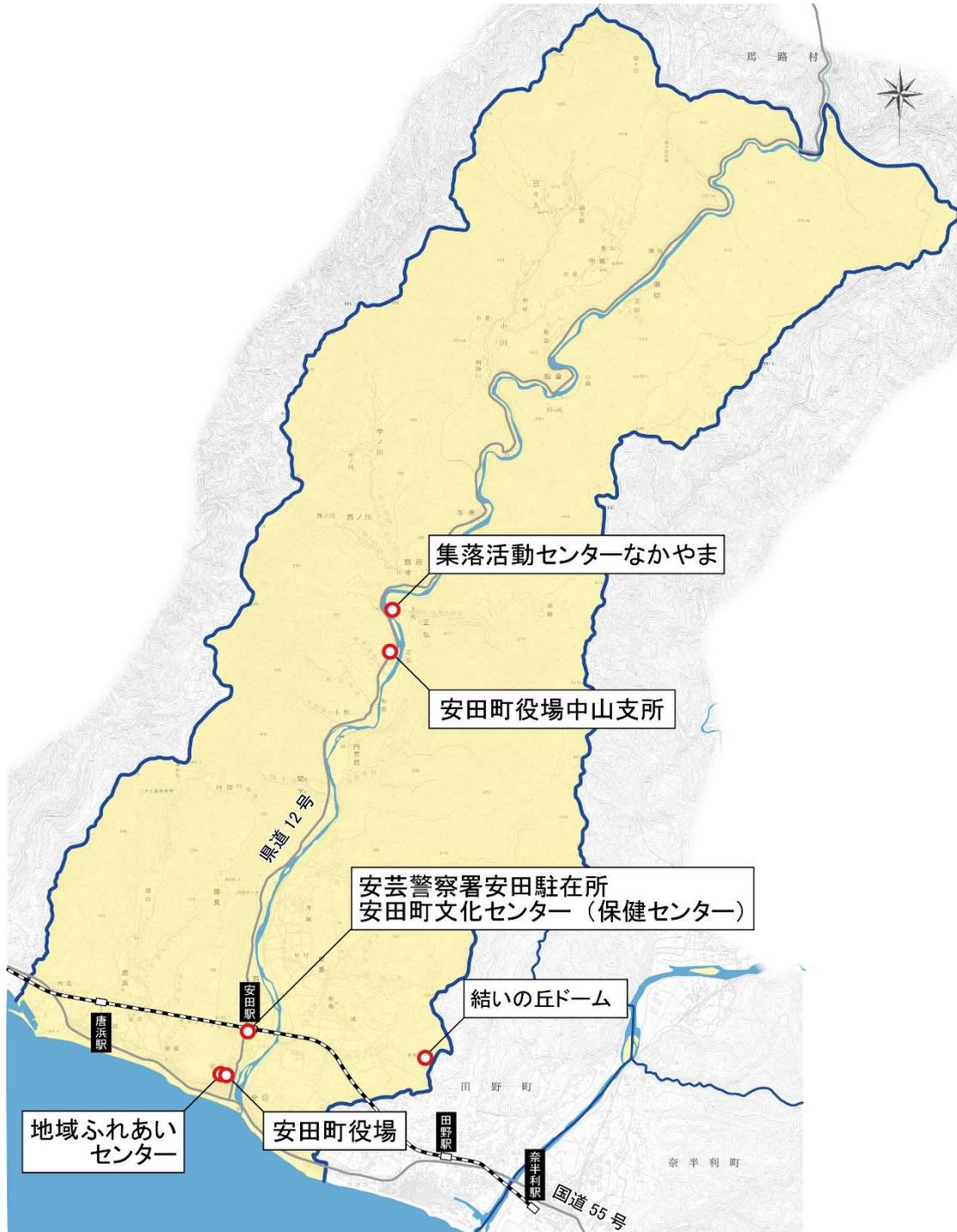
(出典：平成 27 年国勢調査より)

平成 27 年国勢調査の人口データを、125mメッシュでその分布を整理したところ、上の図のとおりとなった。

人口の多くは海岸に近い安田地区や唐浜地区、少し安田川を遡った東島地区など、町の平野部に集中している。

3. 安田町の主要施設分布

1) 公共施設

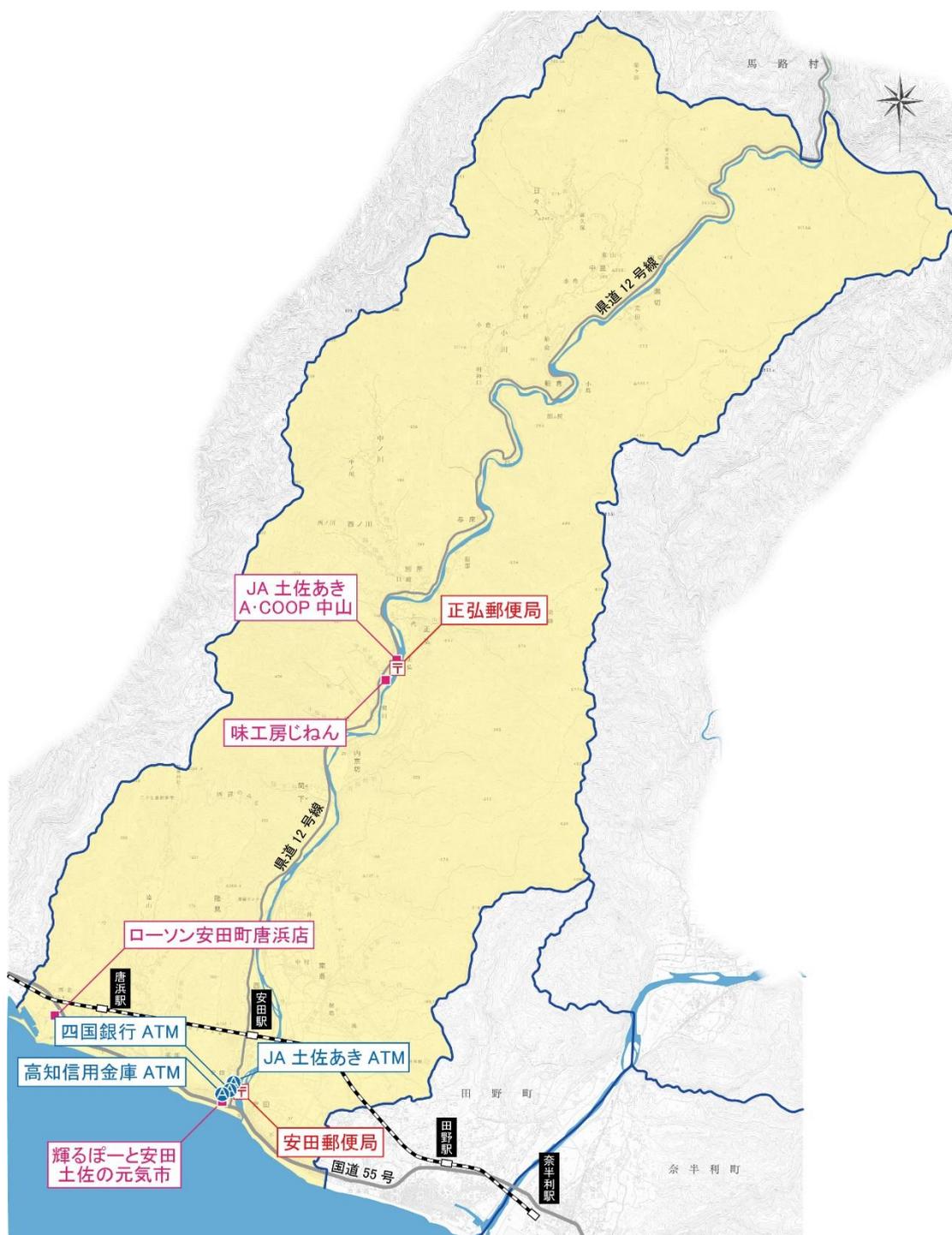


図：公共施設の分布

本町の公共施設の分布を見ると、役場本庁舎のある安田地区と中山地区にそれぞれ主となる公共施設が分布している。

田野町と本町山間部をつなぐ広域農道沿いに県東部地域最大級となる「結いの丘ドーム（中芸広域体育館）」が立地している。

2) 商業施設

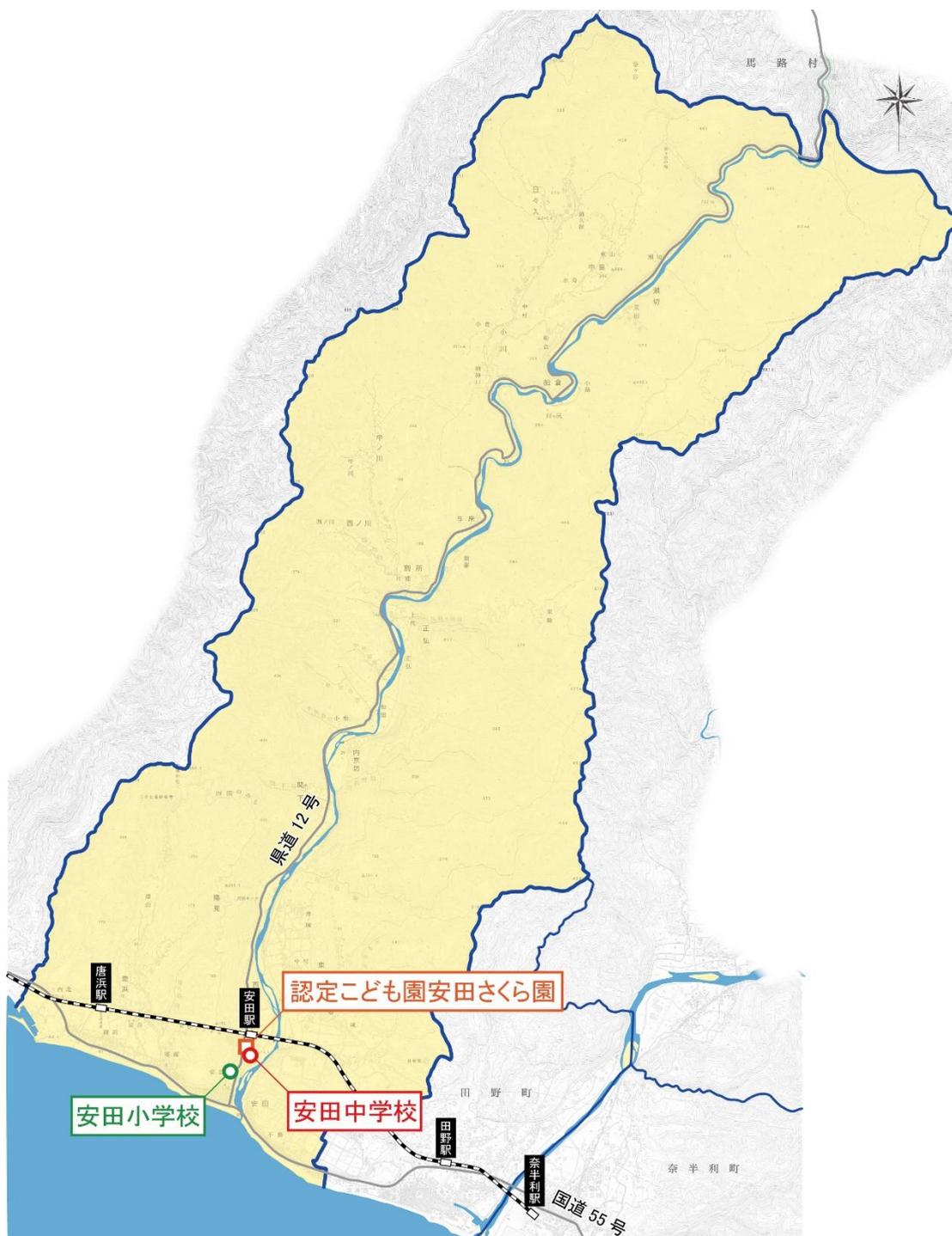


図：主な商業施設の分布

本町における生活必需品を扱う商業施設と郵便局、金融機関を整理すると図のとおりとなった。

安田地区と中山地区の中心部に主だった施設が立地している。

3) 学校施設・保育所

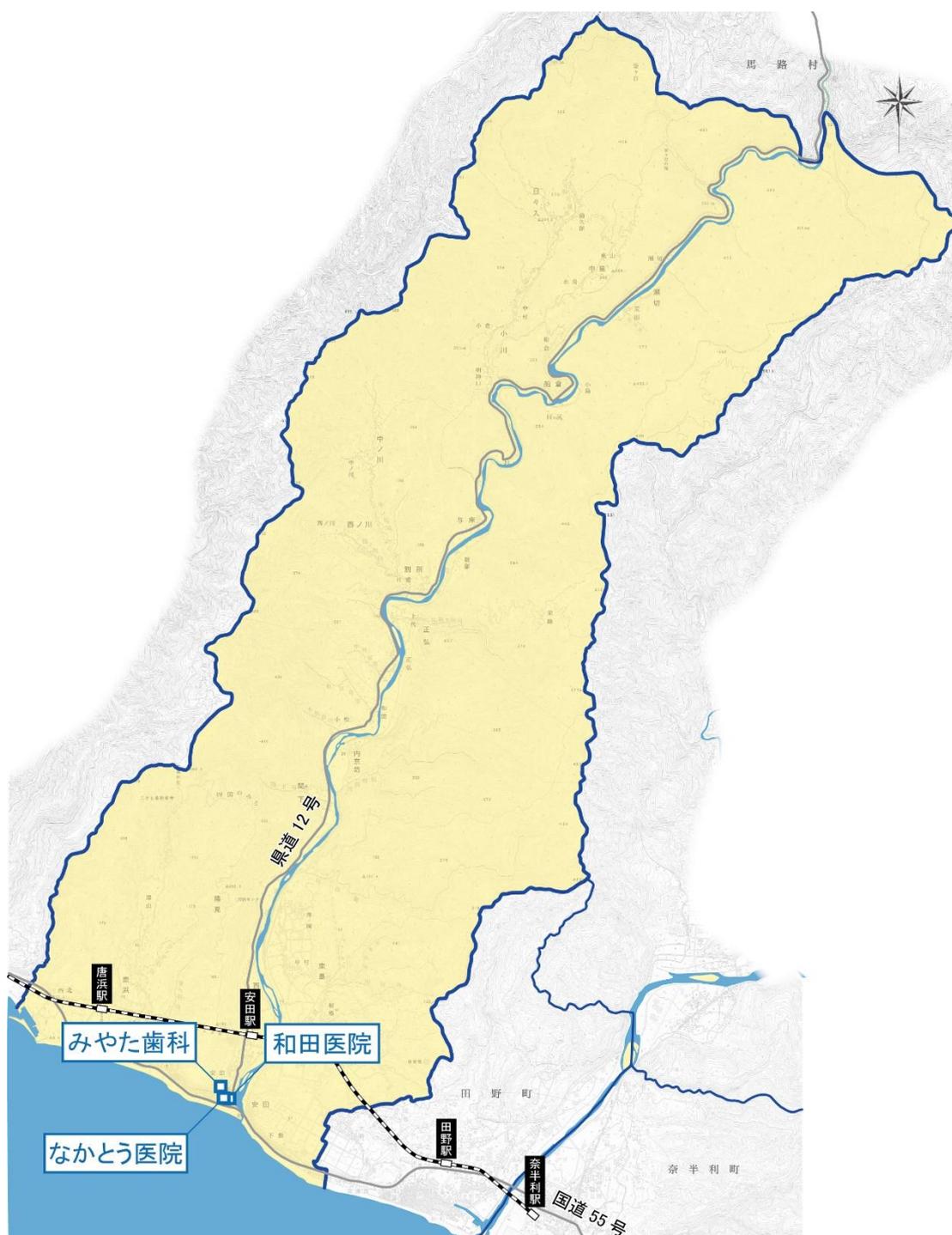


図：学校施設・保育所の分布

本町の学校施設である安田中学校と安田小学校、そして認定こども園である安田さくら園は全て安田地区に立地している。

町北部の中山地区からはスクールバスを運行している。

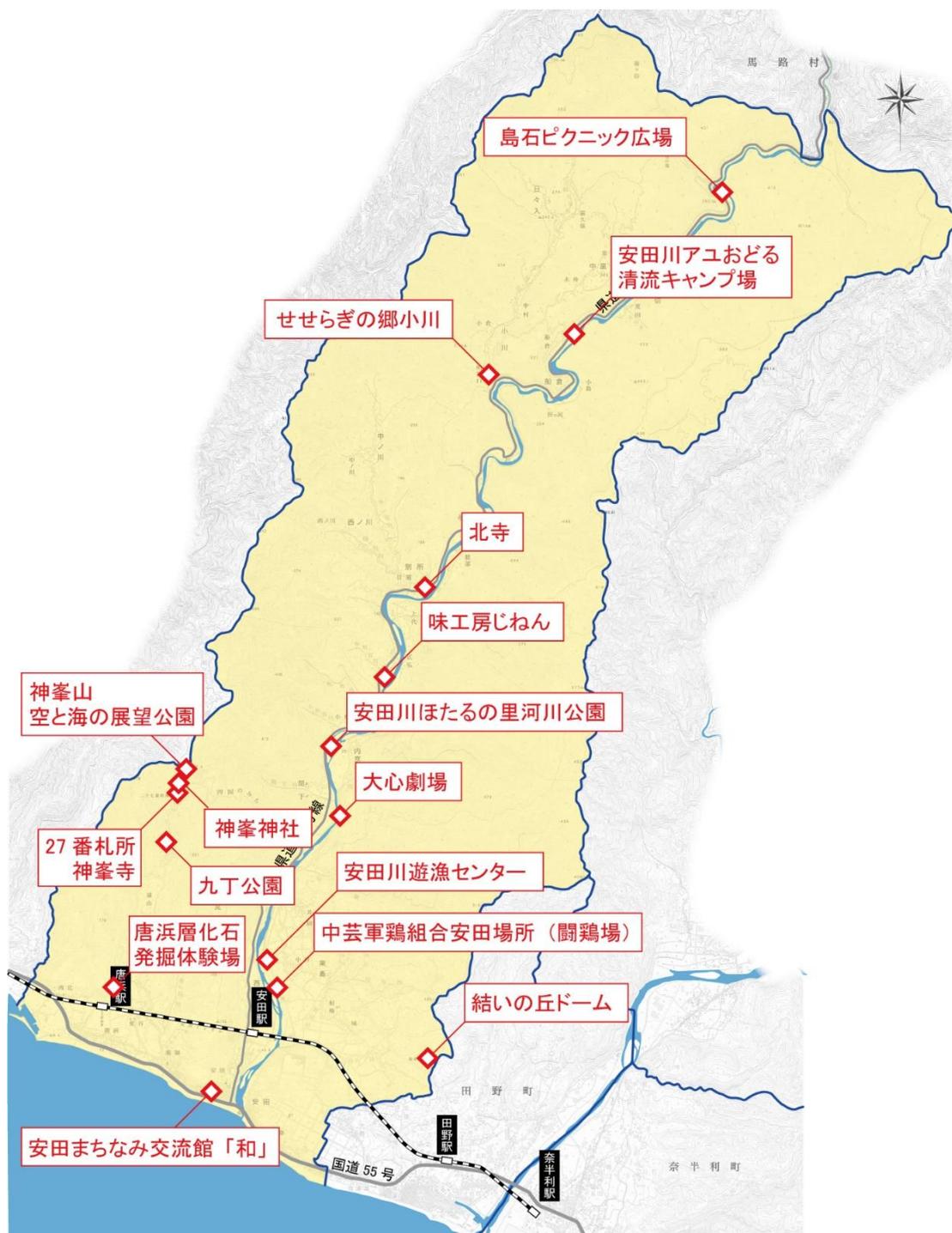
4) 病院・診療所



図：病院・診療所の分布

本町の病院・診療所施設（3施設）は全て安田地区に立地している。

5) 観光関連施設



図：観光・娯楽施設の分布

本町における観光関連施設は、安田川に沿った地区及び四国霊場第二十七番札所神峯寺付近に点在している。

4. 通学及び通勤流動

本町の通勤・通学流動を見てみると、流入が307人、流出が543人となっており、流出が流入を上回っている。流出の内訳を見てみると、通勤の流出は461人となっており、安芸市への通勤が最も多く150人、次いで田野町への通勤が81人と多くなっている。通学の流出は82人となっており、約半数の42人が安芸市へ通学している。

流入では、安芸市からの通勤が77人と最も多く、次いで田野町からが45人、奈半利町からが41人となっている。通学は田野町から3人、高知市、奈半利町、北川村から1人ずつ通学している。

通勤及び通学による流出が流入を上回っていることにより、昼間人口より常住人口（夜間人口）が多くなっている。

表：安田町を中心とする通勤・通学流動（平成27年 単位：人）

	流入			流出		
	総計	通勤	通学	総計	通勤	通学
高知市	33	32	1	54	33	21
室戸市	34	34	-	42	41	1
安芸市	77	77	-	192	150	42
南国市	11	11	-	22	13	9
須崎市	-	-	-	1	-	1
宿毛市	1	1	-	-	-	-
香南市	30	30	-	15	15	-
香美市	4	4	-	5	5	-
東洋町	-	-	-	1	1	-
奈半利町	42	41	1	65	64	1
田野町	48	45	3	87	81	6
北川村	22	21	1	18	18	-
馬路村	4	4	-	25	25	-
芸西村	-	-	-	14	14	-
いの町	1	1	-	-	-	-
他県	-	-	-	2	1	1
合計	307	301	6	543	461	82

出典：平成27年国勢調査結果より

表：常住人口と昼間人口

常住人口	昼間人口	昼夜間人口差	昼夜間人口比率
2,631 人	2,395 人	▲236 人	91.0 %

出典：平成27年国勢調査結果より

5. 広域的視点からの安田町

1) 中芸広域連合

本町と、田野町、奈半利町、馬路村、北川村を含めた 5 か町村は、中芸地域と称され、一時期は、市町村合併も検討されていた。

合併は実現しなかったものの、5 か町村で中芸広域連合を構成し、消防本部や保健福祉、介護サービス、広域体育館などを広域連合において事業推進、運営している。



図：中芸広域連合を構成する自治体

表：中芸広域連合構成自治体の概要（平成 27 年）

	面積 (km ²)	人口 (人)	人口密度 (人/km ²)	人口増減率 (%)
安田町	52.36	2,631	50.2	-11.7
田野町	6.53	2,733	418.5	-6.8
奈半利町	28.36	3,326	117.3	-6.1
馬路村	165.48	823	5.0	-18.8
北川村	196.73	1,294	6.6	-5.3
合計	449.46	10,807	24.04	-8.6

※人口増減率は平成 22 年国勢調査結果と比較

出典：平成 27 年国勢調査結果より

2) 商圏の考え方

(1) 中芸地区商圏の考え方

中芸地区商工会の協力を得て、「プレミアム付地産地商商品券」の利用状況から、中芸地区の商圏を考えてみる。

【プレミアム付地産地商商品券の概要】

- ① 利用期間 平成 29 年 8 月 7 日 (月) ～平成 30 年 1 月 7 日 (日)
- ② 販売期間 平成 29 年 7 月 31 日 (月) ～平成 29 年 8 月 6 日 (日) まで
※販売状況により追加販売あり
- ③ 販売場所 中芸 5 町村臨時販売窓口
- ④ 販売金額 額面 500 円券 23 枚綴り
町村限定使用商品券 17 枚、5 町村共通使用可能商品券 6 枚を 1 万円で販売
- ⑤ 購入者 各町村の居住者
- ⑥ 利用店舗 発行町村毎の小売・サービス・飲食店など



図：プレミアム付地産地商商品券の販売地域

(2) プレミアム付地産地商商品券自治体間の使用内訳

平成 29 年度のプレミアム付地産地商商品券は、全 23 枚の内 6 枚（共通使用可能商品券）が他の自治体での使用も可能となっている。

この 6 枚の使用状況を見てみると、安田町の居住者は 58 万 6 千円分（59.61%）を安田町内で使用している。他には奈半利町で 20 万 8 千円分（21.16%）、田野町で 16 万円分（16.28%）、馬路村で 2 万 2 千円分（2.24%）、北川村で 7 千円分（0.71%）と続いている。

他自治体居住者による安田町内での使用状況では、奈半利町居住者が最も多く、13 万 7 千円分、続いて田野町居住者が 9 万 6 千円分、馬路村居住者が 8 万 3 千円分、北川村居住者が 8 千円分となっている。

中芸地域 5 か町村における共通使用可能商品券の使用先分布を見ると、奈半利町が最も多く 163 万 4 千円（37.66%）、続いて田野町が 99 万 8 千円（23.01%）、そして安田町が 91 万円（20.98%）、馬路村 66 万 2 千円（15.26%）、北川村 13 万 4 千円（3.09%）となっている。

表：町村共通プレミアム付地産地商商品券の自治体間の使用状況（単位：千円）

		商品券が使用された自治体					合計
		安田町	奈半利町	田野町	馬路村	北川村	
商品券が 発行された 自治体	安田町	586	208	160	22	7	983
		59.61%	21.16%	16.28%	2.24%	0.71%	100.00%
	奈半利町	137	767	230	10	49	1,193
		11.48%	64.29%	19.28%	0.84%	4.11%	100.00%
	田野町	96	434	560	15	10	1,115
		8.61%	38.92%	50.22%	1.35%	0.90%	100.00%
	馬路村	83	18	32	615	0	748
		11.10%	2.40%	4.28%	82.22%	0.00%	100.00%
	北川村	8	207	16	0	68	299
		2.68%	69.23%	5.35%	0.00%	22.74%	100.00%
	合計	910	1,634	998	662	134	4,338
		20.98%	37.66%	23.01%	15.26%	3.09%	100.00%

出典：「平成 29 年度プレミアム付地産地商商品券発行事業の結果概要（速報）」

中芸地区商工会

表：町内限定プレミアム付地産地商商品券の使用状況（単位：千円）

	安田町	奈半利町	田野町	馬路村	北川村	合計
商品券 使用金額	2,818	3,384	3,176	2,122	850	12,350

出典：「平成 29 年度プレミアム付地産地商商品券発行事業の結果概要（速報）」

中芸地区商工会

(3) 中芸地区プレミアム付地産地商商品券使用店舗自治体別内訳

中芸地区プレミアム付地産地商商品券が使われた店舗の自治体別ランキングは次の通りとなっている。

安田町で1番多く使われたのは「オーシャン石油」となっており、以下「輝るぽーと安田」、「味工房じねん」、「デトワール（キララ、ラポール）」、「辻酒店」と続いている。

表：町別プレミアム付地産地商商品券使用店舗上位5店舗

	1位	2位	3位	4位	5位
安田町	オーシャン石油	輝るぽーと安田	味工房じねん	デトワール（キララ、ラポール）	辻酒店
奈半利町	土佐あき農協（給油所）	ホテルなはり	養老乃瀧	能勢石油店	小僧寿し奈半利店
田野町	田野駅屋	田野衛生	岩崎石油	美藤商会	田野ホンダ
馬路村	馬路村農協	魚梁瀬石油	平山自動車	馬路温泉	フードショップきよおか
北川村	田中勘助商店	土佐あき農協北川支所	池田柚華園	高橋商店	モネの庭

出典：「平成29年度プレミアム付地産地商商品券発行事業の結果概要（速報）」
中芸地区商工会

